

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

発行 東京勤労者医療会 代々木病院 1部60円
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
TEL.03(3404)7661
E-mail address yo_sosiki@tokyo-kinikai.com
友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

病態の早期発見、誤嚥性肺炎の予防などの取り組みがひろがる

代々木歯科と代々木病院、治療と予防で協力

代々木歯科と代々木病院が共同して進める新しい取り組みが大変好評です。これについて代々木歯科の山内真人所長にご紹介していただきました。



山内真人所長

病棟衛生士による毎日の口腔ケア

今、代々木病院では医師、看護師に混じって歯科衛生士が働いています。全国的にも珍しく、2012年4月より開始された新しい取り組みです。

歯科医師の米山武義氏ら(2001年)は口腔ケアによって誤嚥性肺炎



▲入院中の患者さんに口腔ケアをする病棟衛生士

▼病室で診療をする代々木歯科の歯科医師(右)と歯科衛生士(左)



一般的には、病院に歯科衛生士が配置されることはまれですが、代々木病院の皆様のご理解とご協力を頂き、患者さんのために先進的な取り組みが可能となりました。今後も、より充実した医療となりますよう努力を重ねていきたいと思っております。

入院中もチーム医療で歯科往診

大西徹郎氏ら(2005年)は手術実施日前後(術後)での口腔ケアにより、術後の発熱の減少と術後の入院日数が短縮することを報告しています。

病棟衛生士は入院患者さんの毎日の口腔ケア、病態の早期発見と歯科往診チームへの紹介、看護師への口腔ケア法の指導などを行っています。また、NST(栄養サポートチーム)・多職種で患者さんの栄養管理を行う集団)の会議にも参加して、口腔ケアから栄養面

また、入院中に歯が痛い、困ったというときに活躍するのが歯科往診チームです。持ち運び可能な歯を形成する器具やレントゲンなどがあり、診療室に近いレベルで診断、治療ができます。また、最近多くなってきたのが、嚥下障害と言われる飲み込みづらい症状への対応です。現在、歯科の分野は病棟での口腔ケア、誤嚥性肺炎の予防や、寝たきりでも入院しても往診でしっかりした治療、食事形態の支援からフレイル(虚弱)予

の支援まで広く活躍をしています。

最後に、予防の分野でも新しい取り組みが始まっています。国の定める歯科検診は学童期と40歳以降に10年毎しかありません。

しかし、代々木歯科は代々木病院の健診センターとタッグを組み、企業健診に歯科相談を加えてもらっています。このことにより虫歯の早期発見や利用者さんのお悩みにも応えることができている。2014年10月より開始され、これまで2000人以上の方が利用されています。歯科に行くのは怖いけれど話をしてくれるだけなら大丈夫という方にも好評です。

防、リハビリ等と多種多様にひろがっています。健診で衛生士がお悩みに応える

2016 健康まつり 開催のお知らせ 入場無料
【日時】 10月15日(土) 正午~午後3時 小雨決行
【場所】 代々木病院
【主催】 健康まつり実行委員会
企画・各種模擬店など準備中です。お楽しみに♪



3階病棟 医師 長代田和博 医師

歯科との連携で誤嚥性肺炎が大幅減少

歯科衛生士が病棟に配置される前後6カ月ずつを比較したところ、誤嚥性肺炎がなんと6割も減っていました。病棟の歯科衛生士のおかげで医師や看護師の意識が変化していったことが大きかったと思います。そして何よりも誤嚥性肺炎の減少は、患者さんにとって大きな喜びです。

また退院後も代々木歯科の先生が患者さん宅で診療していただけるので安心です。よりいっそう連携を深めたいです。そして口腔ケアの必要性を、在宅ケアに関わるご家族のみならずにも知っていただきたいと思っています。



健診で相談を受ける代々木歯科の歯科衛生士(左)

千駄の萱

少し早い夏休みを利用して、7月に広島を訪れました。かねてより一度は訪れたい場所であったので念願がかないました。滞在していた間、晴天が続き、とても暑かったです。原爆が落とされた日も、同じように暑かったらうかと、陳腐な想像もしてみました。▼平和祈念資料館の売店で一冊の本に出会いました。「原爆体験記」という本です。恥ずかしながら初めて手にしました。被爆者の叫びで埋め尽くされた本です。読むのがつらいです。私のどんな想像も及ばない世界でした。しかし、我々は想像しなければなりません。自分のありったけの想像力を働かせて。それが日本人として生きていく者の使命だと思ふのです。私は出来る限り多くの人にこの本を紹介したいと思ひます。▼最後に、大江健三郎さんの言葉を引かせて頂きます。「この書物こそは、われわれ日本人の、もっとも基本的なモラルの根底にかかわっているものです。ここにもられた叫びに耳を聴いてはなりません。それはなによりもわれわれ自身の精神の健全のために必要な叫び声です。」(け)